

雪氷写真館③④ デブリ氷河上の凹凸



写真 1 . 白い凸 .



写真 2 . 黒い凸 .

## デブリ氷河上の凹凸

氷河の表面を覆っているデブリ（岩屑）は、薄いときには表面のアルベドを低下させ融解を促進しますが、ある一定以上の厚さになると断熱効果が勝り、今度は融解を抑制する働きをします。そのために、デブリの厚さの違いにより氷河上に凹凸のパターンが形成される場合があります。

写真 1 はネパール・ヒマラヤにあるクンプ氷河で見られる“アイスピナクル”と呼ばれるものです。この場合はデブリが薄い（白い）部分が上に凸になっています。なお、アイスピナクルは流線に沿って連続的に分布します。

写真 2 はロシア・カムチャツカ半島のビルチェノック氷河で見られる Ridge と名づけられたものです。今度はデブリの厚い（黒い）部分が上に凸で、流線方向に直交、すなわち氷河を横断する方向に伸びています。これらの Ridge は、周期的に何列も存在していることから、サージの発生周期との関係が議論されています。

デブリ氷河上で見られるこのような凹凸は大きいところで 30 m 近い比高差を持つ場合があります。なぜデブリの厚さに空間的な違いが生じるのかを調べることは、氷河の挙動を知る上で大きな手がかりとなります。

山口 悟（防災科学技術研究所 雪氷防災研究部門）